題目　恋愛関係における嫉妬感情および情熱に対する関係流動性と
　　個人の配偶価値の効果の検討

氏名　南　恵李花

指導教員　結城雅樹

本研究の目的は社会生態学的環境要因の関係流動性と個人要因の配偶価値が嫉妬に与える影響を検討することである。嫉妬は、1) 恒常的なパートナー喪失の不安傾向の認知的嫉妬、2) 恋人保持行動の側面を持つ行動的嫉妬、そして 3) パートナー喪失リスク検知である感情的嫉妬の下位要素からなる（Pfeiffer & Wong., 1989)。本研究では、関係流動性が異なる日本およびアメリカの間で国際比較研究で関係流動性、個人の配偶価値、および関係流動性と個人の配偶価値の交互作用が嫉妬に与える影響を検討した。具体的には高関係流動性社会では、コミットメント証明行動などによりパートナーの認知的嫉妬や行動的嫉妬は低くなるだろう。一方で、実際にパートナーを奪われるリスクが高いので敏感にそれを察知する為感情的嫉妬は強いだろう。反対に低関係流動性社会ではコミットメント証明をする必要性がなく、認知的嫉妬や行動的嫉妬は低減されず強くなるだろう。しかし、パートナー喪失リスクが低い社会なので感情的嫉妬は低くなるだろう。さらに本研究ではこうした社会環境の構造に加え、個人特性である配偶価値が与える影響についても注目する。嫉妬感情に対する配偶価値の効果は、特に関係の選択の自由度の高い高関係流動性社会においてより強いだろうと予測する。なぜなら豊富な恋愛パートナーの選択機会が存在する高関係流動性社会では、個人の配偶価値によって新規関係構築の機会が異なるが、そうした関係構築機会に乏しい低関係流動性社会では個人の配偶価値に関わらずパートナー喪失機会も新規関係構築機会も一律であると考えるからだ。以上の予測に基づき本研究は、関係流動性が異なる日本とアメリカの間で国際比較研究を実施した。研究の結果予測と反し認知的嫉妬と感情的嫉妬においてアメリカよりも日本で有意に高いことが示された。一方で行動的嫉妬に関しては有意な日米差は見られなかった。さらに関係流動性と配偶価値の交互作用効果についても予測に反し、認知的嫉妬と行動的嫉妬における女性の配偶価値と関係流動性の交互作用効果しか見られなかった。これも認知的嫉妬では高関係流動性社会では女性の配偶価値が低いほど感じていたが、低関係流動性社会では女性の配偶価値は認知的嫉妬に影響を与えず、行動的嫉妬では高関係流動性社会では女性の配偶価値は影響を与えなかったが、低関係流動性社会では女性の配偶価値が高いほど行動的嫉妬を感じる結果となった。